

に満足いただくか、自社で再購入してくれるかの重要なポイントとなります。いい話は5人に伝わりますが、悪い話は10人にスピードを持って伝わります。日頃の地道な活動が重要であると考えております。

『CS』で成功した例として、アメリカのダラスでキャデラックのディーラーをしているカール・スウェーブさんの事を申し上げますが、この方は父親より引継いだ段階では低迷していた会社を『CS』で、現在では全米のキャデラックのトップディーラーにしております。この方は『CS』を徹底してやってゆこう、お客様第一に、お客様に対して考えられる事は何でもやってゆこうと考えて実行されました。

当社といたしましても『CS』が将来的にも商売につながると考えて取組んでおり、お客様により良いフォローができるよう努力してまいります。

最後にお願いと役に立つ情報という事で、車を買うなら2・3・6・7月、特に2・3月は法人が決算月で車を買う、又新社会人が車を買うという事でメーカーが車を一番多くつくります。車は積み上げてストックとしておけず、たくさんの車をメーカーもディーラーも売らなければなりませんので、有利な条件で車を購入できます。

◎ 出席報告

| | | | | |
|--------|-----|-------------|-------------|---------|
| 会 員 数 | 69名 | 出 席 率 | 函 館 北 1月26日 | 85.07% |
| 出 席 | 43名 | | 函 館 東 1月25日 | 83.15% |
| 欠 席 | 26名 | | 函 館 1月20日 | 92.44% |
| 他クラブ出席 | 14名 | | 函館五稜郭 1月21日 | 100.00% |
| 出席合計 | 57名 | | 函館亀田 1月24日 | 86.54% |
| 除 外 者 | 2名 | | | |

次回・2月16日
プログラム

夜間例会 クラブアッセンブリー

一乃松 午後6時

第2510地区 第11分区



1993~1994

The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

□バートR.バース 国際ロータリー会長テーマ

行動に信念を 信念は行動に

BELIEVE IN WHAT YOU DO DO WHAT YOU BELIEVE IN

森 秀樹会長 今年度のテーマ

“出逢いを大切に、”



「セーナ川」 椎谷 龍彦 会員

《第1477回例会》 第30号 2月16日(水)

本日のプログラム

夜間例会 クラブアッセンブリー

一乃松 午後6時

★会 長 森 秀樹 ★幹 事 清水 孝信

例会場：函館国際ホテル 〒040 函館市大手町5-10 TEL 23-5151
例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 事務所：函館市大手町5-10 ニチロビル3階 23-3870

1993~1994

〈第1476回例会〉第 29 号

2月9日の記録

- ◎司 会 森 秀樹 会長 ◎齊 唱 奉仕の理想
- ◎ビジター 直江津R.C.直江智成君、札幌東R.C.山本 諭 君、函館R.C.池見厚一君・梅津佐助君・大平淑人君、函館東R.C.小沢 清君・丸橋清秀君、函館五稜郭R.C.岩田勝三君・富田邦義君
- ◎会長報告 森 秀樹 会長
- 2月の理事会の報告
 - 地区大会30%登録の依頼が参っており、入会2年未満の会員の方に、特に御協力をお願い致します。
- ◎幹事報告 清水 孝信 幹事
- 千葉港R.C.から会報が届きました。
 - 地区大会の登録が、間もなく終了しますので、2年未満の方、又は参加経験の無い方は、御協力下さい。
 - 次週2月16日(木)の例会は、夜間例会にて午後6時より一乃松でクラブアッセンブリーを兼ねておりますので、多数御参加下さい。尚、本日中午に御返事願います。
 - 1月末までの3期分会費納入を御案内いたしておりますが、お忘れの方が多数おいでです。お調べの上、早急に振込方お願い致します。
- ◎親睦活動委員会 藤野 明信 委員長
- ニコニコBOX投入報告
- 森 会長……新会員ご紹介ご協力下さい。又、ニコニコBOX投入もお願いします。
- 藤野 会員……ニコニコBOXにご協力お願いします。
- 中川 会員…… ” ”
- 寺西 会員……本日卓話です。ご迷惑料です。

新 会員・中里会員・村井会員・阿相会員・伊藤(剛)会員・鈴木会員

……BOXに協力。

◎卓話 「窓の考察と歴史」 寺西昭一郎 会員

窓は原始的住居である「洞窟」に光を取り入れ火を使った時「排煙」「換気」そして「展望」を目的にあげた「孔」であり、住まいの歴史と共に進展して来たと言えます。

日本の窓も欧米の窓も現在ではあまり変わらない様に見えますが、基の発展の歴史は気候風土、立地条件、宗教、其の土地で産出している資源の相異により、大きく異なりつつ近代に至って参りました。次に窓の歴史について簡単に考えて見たいと思います。

「西欧の窓」古い西洋建築の基本様式は、主として石やレンガなどを積み重ねる「組積造り」が主体となって居ります。窓は発達史で煙り出しの孔や採光、通風・展望・防衛、時には攻撃等の為に使用され、必要に応じた形態を生み変化発展をして来ましたが、組積建築では壁に大きな孔を開ける事は工法上、大変むづかしく、近代建築家の開拓者の一人でもあります「コルビュエ」の「建築の歴史は光を求める苦闘の歴史であり、窓に対する改造の歴史であった」と云う言葉は其の間の事情を良く物語っていると思います。今ひとつ西欧建築がきわめて厚く強固な壁を持っていた事です。用材自体が自重の重い性質による事もありますが、厳しい自然や外敵から自分達を守る「防衛」の目的に大きな比重を置いて居ります。自然との調和を大事にした、日本の場合とは大きな相違がございます。

「美しい「アーチ窓」のバリエーション」

西欧の窓の歴史は遠く古代エジプトまでさかのぼります。多くのエジプト神殿には天井の高い部分と低い部分の差を利用して、その最上部に作られた高窓「クリア・ストーリー」があり、単に採光目的を「超えた力」を発揮し、中世ヨーロッパの宗教建築に大きな影響を与えました。つまり「高窓」より室内の奥深くさし込む幾条もの光によって、宗教的儀式を行うに「ふさわしい」神秘的でおごそかな雰囲気がかもし出されました。次に登場する代表的な窓は古代ローマの「アーチ窓」であります。この時代はすでに「レンガ」を素材とする窓枠が使われ出し「装飾化」へのきざしが見られます。即ちアーチ曲線で上部の重さを支えると

云う技法は、その技術が進むにつれて開口部を大きく自由な位置に作る様になって参りました。やがて「12世紀～15世紀」の大きな特徴となる「尖頭アーチ窓」を生み出し、次第に2連・3連とつながって、窓のグループ化が進行して、行きついたその尖頭に「トレーサリー」が施される様になり、中には丸い石板の部分にバラの花のデザインをしたものが現われてきました。これが有名な「バラ窓」です。古くから信仰の対象であった「太陽」を形どった「丸窓」の発展したものと考えられます。やがて金属の精製技術が発達し、金属枠の中へ鋭の細いH型のヒモを図形化し、其の中に種々の色をしたガラスをはめ込み、スタンドグラス入りの窓が教会や寺院に使用されるに至り、スタンドグラス窓から入る太陽光線の中に宗教的美しさと荘厳さを実現する様になって参ります。

時代はやがてルネッサンスからバロックへ移ります。「14世紀～16世紀」にかけて、イタリアを始め西欧各地に「古典復興」をテーマとするルネッサンス文化が花開き、芸術や技術と同様に古典への研究を基に新しい表現が始まり、ギリシャ・ローマ建築の荘重な様式が取り入れられた様々な「窓」が造られる様になって参ります。建築家「保坂陽一郎氏」は其の著書「空間の演出・窓」の中で「中世の窓」が内部を意識して作られたのに対して（この時代の建築は外部から見られる事を第一義として作られていた）と述べて居られます。やがて時代は17世紀「バロック」期へと移ります。「ゆがんだ真珠」と云う言葉が示す通り古展建築様式に対し、流動性や不規則な形を重んじる豪華な建築様式が主体となり、ヨーロッパの窓の大きな特徴のひとつである装飾窓が華やかに登場して「改造の歴史」を重ねてきた窓がいよいよ建築物に大きな影響を占める位置となって参ります。その後19世紀に入り工業化の波の中で様々な合金の発展により大きく進歩し、現代の建物に見られる高層・超高層のビルやホテルを始め様々な過去の様式変化を自由に取り入れた多種多様な窓へと変化、中にはビルの壁全体を大型の硝子窓、「カーテンウォール」としてしまったり、屋根部分を窓としたスカイライト方式等、自由に発想する建築家の夢を実現出来る近代建築部分に大きな位置を占める様になって来ました。

日本の窓は西欧に比べかなり違った発達の道を歩んで来ました。西洋の組積みに対照的な「柱梁造り」に依る基本的な違いより窓の様式も大きく異なった発展をたどって参りました。日本は古くから木材資源に恵まれ、木構造が地震に

比較強い事もあって、木材が主建築材として使われて来ました。柱「梁造り」では建物の屋根等上部の重量を柱や梁で支えるため壁に重みがかからず、西欧の「組積造り」に対し最初から柱と柱の間に穴があいた状態の為、開口部を作る苦勞はなく、むしろいかにして柱と柱の間を「ふさぐ」かが問題視されて来たと言えます。6世紀頃佛教の伝来と共に様々な品物と形成された窓が輸入され或いは紹介される事となりますが、西歴500年過ぎからの飛鳥・天兵より平安中期迄は主として「葺戸」が使われたと考えられます。これはムシロや板・皮等で作った戸らしき物を鴨居からつるして外に押し上げて突かえ棒で支える等して、現在の「突き出し窓」にあたるものであり、突き上げては通風や通行又は採光に用い、閉めるとカンヌキ等を用い戸締まりをする。仲々に機能的な構造となって居りました。やがて平安時代後半に入って寝殿造りに「遺戸」(板を横江りにする)が使われる様になり、やがて2枚引違いの戸や窓に発達進歩のきざしが見えて参ります。1200年代鎌倉、そして室町期になると様々な窓が登場して参ります。禅宗寺院に見られる「花頭窓」や書院窓、茶室や数寄屋造りに使われる「丸窓」、城の天主に見られる「出格子窓」城壁に開けられた「のぞき窓」大手門等に使われる「観音門開き大戸」神社・佛閣に或いは貴族のやかたに見られる「連子窓」等も茶人達が「竹連子窓」として愛用する様になって、やがて一般大衆の内豪商等の正面玄関出入口として使われる様になって参ります。

ここで日本の窓が他の国にない特徴を見ますと、日本の窓には太陽の光りを優しく採り入れたり調節したりするための「明かり障子窓」が使われているところがあります。和紙の発見発達と云うすばらしい材料を得て、17世紀後半～18世紀中期にかけて西欧ではガラスの製法が発達し、ガラス窓が使用され出しましたが、日本では1880年明治に入り、英国・フランス等から製品の輸入を見るまでは和紙を張って明かりを採り入れる事が主流であり、和紙より入る光と影が一体となった「神秘的雰囲気」を生み出す空間は、谷崎潤一郎氏が「陰翳の文化」であるとほめたたえて居ります様に日本の文化其のものに大きく影響を与えて参りました。日本にガラス窓が登場するのは大正中期迄待たねばなりません。1913年大正2年日本にも金属建具の工場が設立されました。関東大震災によりすべてが破壊され復興により建物の耐震・耐火の研究が進み大きく改善され、金属サッシの需要が急増し急速に建物の窓の金属化が進む事となりました。然し1943年昭和18年、第二次大戦のさなか、金属サッシの工場は生産をやめ武器の製作をするのやむなきに至りました。1945年第二次世界大戦は終了、殆んど全ての日本の大都市は破壊され、其の復興の為必然的に大量の大型建築物が設計され金属サッシは幾ら製作しても不足であると言う時期を迎えます。但し一般住宅は以然として木製建具窓が主流でありました。1957年昭和32年、戦後12年、それまで飛行機の材料として

大量に使われて参りましたアルミ合金が余って参りました。アメリカ等からの輸入増大と共にその特性である「軽くて耐候性や成形加工性」の良いアルミは鉄に変わって戦後建築されたビル群の窓に収まり種々な発想から現在の建物に見られる形状となって来ました。常に発展を続ける建築物は、平和な時には其の開口部は大きく大きく自由な空間を造り出し、戦争や争いの続く時代や国では防壁の為、シェルターの様に窓は小さく暗い空間を作り出します。私達は平和で大きな窓から思う存分の光を採り入れ自由な発想の出来る様な平和が全世界に永遠に続く事を神に祈りたいと思います。以上つたない卓話を終らして戴きます。ありがとうございました。

◎出席率報告 出席委員会

93年7月～12月(上半期)

100%出席者……阿相・浜・橋場・橋本・堀部・市川・飯田・石上・伊藤・金子・加藤(久)・加藤(清)・川村(昭)・川村(邦)・北村・小池・小竹・松橋・三沢・森(秀)・村井・中川・中野・西尾・小笠原・斉藤・三本木・佐々木(公)・佐藤(剛)・清水・新・竹野・寺西・山下・大和・山崎(晃)・吉田・薮下各会員
以上38名です。

上半期クラブ出席率は、93.65%

◎出席報告

| | | | | |
|--------|-----|-------|-------------|---------|
| 会 員 数 | 69名 | 出 席 率 | 函 館 北 2月 2日 | 91.04% |
| 出 席 | 45名 | | 函 館 東 2月 1日 | 83.15% |
| 欠 席 | 24名 | | 函 館 1月27日 | 88.33% |
| 他クラブ出席 | 16名 | | 函館五稜郭 1月28日 | 100.00% |
| 出席合計 | 61名 | | 函館亀田 1月31日 | 86.54% |
| 除 外 者 | 2名 | | | |

次回・2月23日
プログラム

クラブフォーラム

「世界理解と平和の日」紹介VTR

国際奉仕委員会 吉田 隆 委員長



The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

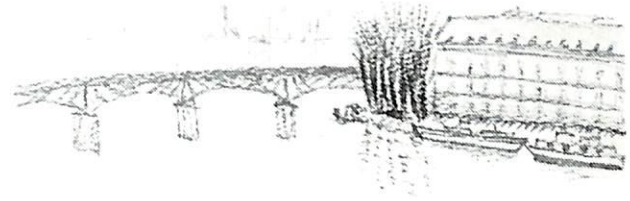
□バートR.バース 国際ロータリー会長テーマ

行動に信念を 信念は行動に

BELIEVE IN WHAT YOU DO DO WHAT YOU BELIEVE IN

森 秀樹会長 今年度のテーマ

“出逢いを大切に、”



「セーヌ川」 椎谷 龍彦 会員

《第1478回例会》 第31号 2月23日(水)

クラブフォーラム

本日のプログラム

「世界理解と平和の日」紹介VTR

国際奉仕委員会 吉田 隆 委員長

★会 長 森 秀樹 ★幹 事 清水 孝信

例会場：函館国際ホテル 〒040 函館市大手町5-10 TEL 23-5151
例会日：毎週水曜日 12:30～13:30 事務所：函館市大手町5-10 二チロビル3階 23-3870